

## 第8回稲沢市観光基本計画策定委員会 会議録

【日 時】平成30年2月14日（水）午後2時～午後3時12分

【場 所】稲沢市役所本庁舎3階 議員総会室

【出席者】稲沢市観光基本計画策定委員会委員（敬称略）

大澤 健	和歌山大学経済学部教授
栗林芳彦	名古屋文理大学情報メディア学部情報メディア学科教授 ・地域連携センター長
鈴木 隆	一般社団法人愛知県観光協会専務理事兼事務局長
古川正美	稲沢市観光協会事務局長
服部正見	稲沢商工会議所理事兼事務局長
山田 洋	祖父江町商工会事務局長
野村 修	平和町商工会事務局長
安藤之一	名古屋鉄道株式会社国府宮駅長
林 和伸	善光寺東海別院副住職
伊藤哲浩	愛知県振興部観光局観光振興課長
岩間福幸	稲沢市経済環境部長
遠藤秀樹	稲沢市教育委員会教育部長
大野邦子	稲沢市観光協会ボランティア・稲沢市ふるさとガイドの会
橋本昌博	株式会社国分農園代表取締役
高村宗克	特定非営利活動法人ネイヴル理事長
水谷光宏	株式会社水谷建設代表取締役（平和町商工会副会長）
【事務局】 渡會竜二	経済環境部調整監
澤田雄一	商工観光課長
久留宮庸和	商工観光課主幹
大屋 将	商工観光課主任

### 【議事次第】

- 1 委員長あいさつ
- 2 協議事項
  - (1) 稲沢市観光まちづくりビジョン（案）について
  - (2) 稲沢市観光まちづくりビジョンキックオフシンポジウムについて
  - (3) その他
- 3 その他

### 【会議の概要】

[事務局]

皆様こんにちは。定刻となりましたので、ただ今から第8回稲沢市観光基本計画策定委員会を始めさせていただきます。本日はお忙しい中、ご出席を賜りまして誠にありがとうございます。

私はこの会議の進行を務めます、経済環境部商工観光課長の澤田雄一です。よろしくお願いいたします。

始めに会議の開催にあたり、大澤委員長からごあいさつを頂戴したいと思います。

## 1 委員長あいさつ

[委員長]

皆様こんにちは。前回の策定委員会は雪が降る中での会議でした。「今が一年で一番寒い時期で、これから段々と暖くなる」という話をしたところ、今日は本当に暖かくなり、稲沢市の新しい観光が始まる予感がするような天気となりました。そのような中で、本日が策定委員会としての最後の会議となります。今回は思わぬ部分で様々な修正点が出て、その後事務局には大変な負担をおかけしました。その分最終的に出来上がってきた計画書は非常に良い形のものになったと思います。ご尽力いただき、感謝を申し上げます。

本日の会議では、前回の会議で出された意見を踏まえて修正したビジョン案を最終確認するとともに、「来年度に向けてどのように計画をスタートさせていくか」という話が多くなると思います。繰り返しになりますが、本日が最後の会議となります。くれぐれも「言い残したこと」や「本当はこれが言いたかった」ということが無いよう活発なご意見をいただけたらと思いますので、よろしくお願いいたします。

[事務局]

ありがとうございます。次に3点、ご報告とお願いをさせていただきます。

初めに本日の会議ですが、塩冶康人委員から欠席のご連絡をいただいておりますことをご報告いたします。

2点目として、本日の策定委員会には、稲沢市観光基本計画の策定にあたり業務支援をいただいております株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所様に引き続き事務局の補助として同席いただいておりますので、よろしくお願いいたします。

3点目として、本日は会場が広がっておりますので、ご発言いただく際はマイクをお使いいただきますよう、ご協力をお願いいたします。

それでは、これより議事に移らせていただきます。本日の協議事項は、お手元のレジメに記載のとおり、「稲沢市観光まちづくりビジョン（案）について」、「稲沢市観光まちづくりビジョンキックオフシンポジウムについて」、「その他」の3点となります。

前回の策定委員会後、委員の皆様からいただいたご意見を踏まえ、ビジョン案を修正いたしました。本日はその結果をご報告するとともに、最終案をご提示いたします。また、3月10日（土）午後2時から、名古屋文理大学文化フォーラム小ホールで開催いたしますキックオフシンポジウムの開催概要についてもご説明します。限られた時間ではありますが、ご審議賜りますようお願いいたします。会議の議事進行につきましては、本委員会の設置要綱の規定により、委員長が務めることになっておりますので、以後の会議の取り回しにつきましては、大澤委員長をお願いいたします。

## 2 協議事項

### (1) 稲沢市観光まちづくりビジョン(案)について

[委員長]

これより議事に入ります。

最初に協議事項(1)稲沢市観光まちづくりビジョン(案)について、事務局から説明をお願いします。

= [事務局] =

**【資料1「稲沢市観光まちづくりビジョン(案)」及び参考資料「稲沢市観光まちづくりビジョン(案)新旧対照表」に基づき説明】**

[委員長]

事務局からの説明が終わりました。ご意見やご質問等がある委員は挙手をして発言をお願いします。

[委員]

前回の策定委員会で「本ビジョンの完成冊子は一部がカラー刷りになる」という話がありましたが、どの部分がカラー刷りになるのでしょうか。

[事務局]

各ページに掲載されている写真や図表がカラー刷りになります。また、前回の会議でご意見をいただきました8ページ以降の第3章「重点アクションプラン」についても、見やすさを考慮してカラー刷りとします。

[委員長]

各章のタイトルもカラー刷りになるのですか。

[事務局]

章のタイトルが白抜きになっていますので、タイトルバーの部分がカラー刷りになります。

[委員長]

資料1の中でグレーの色が付いている部分が、基本的にカラー刷りになると理解して良いですか。

[事務局]

基本的にはそのようなイメージになります。

[委員]

見やすさや読みやすさを意識して、カラー刷りでアクセントを付けていただくと良いかと思えます。

[委員長]

3 ページの一番下に今回「※」印の注釈が新たに追加されていますが、語尾が「導き出している」になっています。他の文章は全て「ですます調」になっていますので、表記を統一するため、「導き出しています」に修正していただくようお願いします。

[事務局]

そのように修正します。

[委員長]

もう一点申し上げます。「(仮称) いなざわ観光まちづくりラボ」の表記についてですが、「(仮称)」を「いなざわ観光まちづくりラボ」の後ろに持っていくことは可能でしょうか。第3章「重点アクションプラン」の見出しとして目次に上がったことで改めて思ったのですが、頭にいきなり「(仮称)」と出てくると、重点アクションプラン自体が仮の取り組みのように感じてしまい、格好悪い気がします。

[事務局]

「(仮称)」を頭に持ってきた理由ですが、ビジョン(案)の中で『「(仮称) イチョウ見本園」整備事業』をはじめ、「(仮称)」を頭に付けた用語が他にもあったため、表記の統一を図ったものです。

[委員長]

「(仮称)」を後ろに持ってきて「いなざわ観光まちづくりラボ(仮称)」としたほうが表記の落ち着きが良いと思いますので、全編を通じて不都合が無ければ、表記を修正していただくようお願いします。

[事務局]

全体の表記を見直す中で特に不都合が無いようであれば、「いなざわ観光まちづくりラボ(仮称)」に修正する方向で作業を進めたいと思います。

[委員長]

「必ず直してください」という訳ではありませんので、字面のバランスを見た上で最終判断してください。

[委員]

今回「あじさい」を「アジサイ」として、平仮名からカタカナ表記に変更した理由を教えてください。

ださい。

[事務局]

植物辞典等では「アジサイ」として、品種名の表記にカタカナが用いられています。また、市の観光ガイドブックや観光ガイドマップも同様にカナカナ表記を用いています。そのため、本ビジョンにおいてもこれらの表記に合わせたものです。ただし、「稲沢あじさいまつり」のように平仮名を用いる場合もあります。

[委員長]

「行政文書として使用する場合はカタカナ表記になるが、市民とのふれ合いの場で使う際には平仮名を用いる場合もある」という意味で理解しました。

その他にご質問はありませんか。他に無いようですので、委員の皆様にお諮りします。

協議事項（１）稲沢市観光まちづくりビジョン（案）については、事務局からの提案と委員からの意見等を踏まえて一部修正した内容を最終案とし、策定に向けた最終調整を進めていくこととしてよろしいでしょうか。

<「異議無し」の声>

[委員長]

ご異議も無いようですので、事務局は本日委員の皆様からいただいた意見等を踏まえて一部修正したビジョン（案）を最終案とし、策定に向けた最終調整を進めていただくようお願いします。

**（２）稲沢観光まちづくりビジョンキックオフシンポジウムについて**

[委員長]

次に協議事項２「稲沢市観光まちづくりビジョンキックオフシンポジウム」について、事務局から説明をお願いします。

= [事務局] =

**【資料２「稲沢市観光まちづくりビジョンキックオフシンポジウム開催概要（案）」及び資料３「稲沢市観光基本計画アクションプラン検討会議の開催状況について」に基づき説明】**

[委員長]

事務局からの説明が終わりました。ご意見やご質問等がある委員は挙手をして発言をお願いします。

[委員]

アクションプラン検討会議によるプロジェクト発表の仕方について、先ほど「ステージ上で発表していないチームは会場後方に設置されたブースを運営し、プロジェクトの詳細を説明したり、

今後の方向性を伝えたりするなど、来場者とコミュニケーションを図る」という説明がありましたが、このスタイルに疑問を感じます。発表していないチームもステージ上の発表を聞きたいのではないのでしょうか。このようなスタイルを採用した理由を教えてください。

[事務局]

来年度の「(仮称) いなざわ観光まちづくりラボ」の立ち上げを見据えた場合、「いかにプレイヤーを発掘し、巻き込んでいくか」が非常に重要となります。そのため、シンポジウムという限られた時間の中で「アクションプラン検討会議のメンバーと来場者とが交流できる場面、関心を示した来場者にプロジェクトの詳細を直接説明することができる機会を何とか増やせないか」と思案した結果、このようなスタイルを提案するに至りました。

[委員長]

ブースは開会から常時設置されているのでしょうか。

[事務局]

はい、開会から常設されています。

[委員長]

ステージ上でプロジェクト発表がされている時間帯は、「ブース周辺にはあまり人がいないだろう」という予想でしょうか。

[事務局]

「ブースで話を詳しく聞いてみたい」という方も当然みえると思いますが、基本的にはステージ発表を聞かれる方が多いのではないかと思います。ただし、「ブースが設置されているのにもかかわらず、誰も見に来てくれない」ということでもいけませんので、様子を見ながら来場者に声を掛けるなど、ブースへの案内も併せて行っていきたいと考えます。

[委員]

最初から「このプロジェクトに興味がある」と思っている人はすぐにブースに向かうと思いますが、多くの方は全てのプロジェクトのステージ発表を聞いた上で、ブースに向かうことになると思います。全てのプロジェクト発表を聞いてもらった後に、「興味のあるブースに足を運んでください」とご案内したほうが自然だと思います。

[事務局]

会場がどのような状況になるのかは、正直その時になってみないと分からない部分もありますので、来場者の様子を見ながら、臨機応変に対応していきたいと考えます。

[委員長]

「シンポジウムの終了時間はある程度柔軟に考えている」という理解で良いですか。

[事務局]

終了時刻は「午後4時」としてありますが、その時刻で会場から全て撤収という訳ではありませんので、多少の融通は利くと考えます。

[委員]

シンポジウムへの参加申込は不要という話ですが、当日は受付名簿を作成するでしょうか。

[事務局]

特に作成する予定はありません。

[委員]

自分たちのブースに来てくれた人やプロジェクトに興味を示してくれた人に今後連絡を取ろうと思っても、相手が誰なのか分からなければ連絡の取りようがありません。

[事務局]

各プロジェクトに対する感想や関心度をお聞きする簡単なアンケート用紙を当日来場者に配付する予定です。その中で、住所や名前等の連絡先を任意で記載していただく考えです。

[委員長]

「参加したい」と思った人がすぐに参加できるよう、各ブースにプロジェクトの連絡先を明示しておくことも必要かと思えます。プロジェクトに参加しているメンバーの皆さんに「ここは人釣りの場である」、「なるべく多くの人を巻き込めるように工夫してください」とぜひ周知していただければと思います。

[委員]

シンポジウムへの参加について、市民にはどのような周知を行っているのですか。

[事務局]

市民への周知方法としては、広報いなざわ、市のホームページ、Facebook<sup>フェイスブック</sup>、報道機関への情報提供による新聞等への掲載のほか、支所、市民センター、図書館をはじめとする市内公共施設へのチラシ設置を考えています。

[委員]

定員の150名に達するよう、周知に努めていくことが必要です。ただし、やみくもにPRしても意味が無いので、参加してくれそうな団体等に協力を求めていくことも必要かと思えます。

因みに、広報いなざわにはいつ掲載されるのでしょうか。

[事務局]

3月号の掲載に向けて準備を進めています。

[委員長]

可能であれば、市内の高校や大学にも周知をしていただきたいと思います。大学は春休みですし、高校も入試のシーズンなのでなかなか難しいかもしれませんが、その分思いを込めてチラシを配付しても良いのではないのでしょうか。また、市内の関係企業やこれからプレイヤーとして参加してほしいと思う方々にも、ぜひ周知していただけたらと思います。

[委員]

シンポジウムの開催チラシを追加でいただくことは可能でしょうか。

[事務局]

お申し出いただければ、事務局で用意いたします。積極的にPRしていただけると助かります。

[委員]

シンポジウムの開催日までの間に、アクションプラン検討会議の開催予定はありますか。

[事務局]

近日中にシンポジウムに向けたプロジェクト発表のリハーサルを行う予定です。アクションプラン検討会議のメンバーの皆様には、その際にチラシを配布します。

[委員]

もう一点お聞きします。当日来場者がブースに来て「今後ラボに参加したい」と申し出てきた場合には、どのようにご案内すれば良いのでしょうか。新年度からの活動にはなりますが、何か具体的な案内ができると思いいます。いかがでしょうか。

[事務局]

ラボの立ち上げ時期等の詳細が未だ決まっていませんので、そうした方がいらっしゃった場合は、アンケート用紙に連絡先を記入してもらった上で、「後日市から詳細の連絡が来る」とご案内いただければと思います。

[委員長]

「市役所から」と「個々のプロジェクトから」との両攻めで参加を呼び掛けていくことが一番良い方法かと思ひます。「ラボの立ち上げと活動については、市役所から正式に案内する」ということですので、個々のプロジェクトでメンバーを勧誘しても良いかと思ひます。

因みに、プログラムの中に「祖父江イチョウの研究発表」とありますが、どのような研究なののでしょうか。

[事務局]

このプログラムを今回入れた理由としましては、昨年11月に開催された「そぶえイチョウ黄葉まつり」の際に、会場である山崎地区で発表者である名古屋市立大学の大橋美沙希さんがイチョ



ウの木の原木調査をしているのを偶然見かけ、市の関係者が声を掛けたことがキッカケになります。話を聞いてみたところ、大橋さんは「祖父江のイチョウ」を卒論のテーマに掲げ、山崎地区でイチョウが植栽された歴史とそこに暮らす人々の生活を絡めた研究をされていました。その後、大学で大橋さんの研究指導をされている大野暁彦先生ともお会いし、情報交換や交流を重ねる中で、稲沢市の観光まちづくりの取り組みを紹介したところ、共感していただくことができました。そして、大橋さんの研究成果を「地域の魅力の再認識や再発見」、ひいては「観光まちづくりに向けた市民意識の醸成」に繋げていければと思います、シンポジウムでの発表をお願いしたところ、ご快諾いただいたので、今回プログラムの一つに取り入れたものです。

[委員長]

発表を楽しみにしています。その他に何かありませんか。

[事務局]

事務局から1点失礼します。

先ほど説明の中で、「シンポジウムの最後はキックオフ宣言で締めたい」と申し上げたところで、このキックオフ宣言を「誰にお願いするか」ですが、人選については、大澤委員長のご意見を踏まえて決めていきたいと事務局は考えています。

[委員長]

事務局から「シンポジウムの最後は、稲沢市がこれから観光まちづくりに取り組んでいく宣言をして締めたいと思うが、どなたに宣言をお願いすれば良いか」という相談がありました。

私の意見を申し上げますと、今回の策定委員会の中で松田委員、橋本委員、栗林委員の3名にお願いできないかと考えています。

その理由ですが、始めに松田委員は、「稲沢市といえば国府宮」と言うように、尾張大國霊神社は稲沢市の代表的な観光資源であり、観光の中心としてこれまで活躍されてきたこともあって、「市民にとって最も観光のイメージがしやすい存在である」と思ったからです。

橋本委員については、逆に今まで観光のイメージがほとんど無かった存在だと思いますが、稲沢市の代表的な産業である植木や園芸も観光の一要素として、「これからの稲沢市は様々な地域資源を使って観光に取り組んでいく」というイメージを非常に分かりやすく伝える存在として適任だと思いました。

最後に栗林委員ですが、稲沢市が今後様々な主体と連携して観光まちづくりに取り組んでいく中で、大学との連携や専門知識を使った観光が必要になる場面が必ず出てくると思います。若者や学術的なイメージ、さらには観光分野だけでなく様々な分野の団体・機関等と連携していくことを示す上で、発信者になっていただけないのではないかと考えました。

こうした場でなければ揃うことが無い3名だと思います。だからこそ、この3名が揃った時に「稲沢市が今後取り組んでいく観光のイメージ」が市民の皆さんにも伝わるのではないかと思います。「現場で活躍しているプレイヤーの方々が主役となって観光に取り組んでいくこと」を発信する意味でも、この3名をキックオフ宣言の適任者として推薦したいと思います。皆様いかがでしょうか。

[橋本委員]

大役ですが、非常にありがたい話ですのでお受けします。

[栗林委員]

3名が同時に宣言をするイメージでしょうか。

[委員長]

宣言方法は基本的にお任せしますので、一番分かりやすい形で宣言していただけたらと思います。ただし、バラバラに別の方向を向いて話すことだけは避けてほしいと思います。「今まで大事にしてきた観光のイメージ」と「新しい観光のイメージ」、さらには「多様な主体との連携を行っていくイメージ」が伝わるような宣言を3人で協働して行っていただけたらと思います。

[栗林委員]

難しいお題ですが、お受けします。事務局とも相談しながら、キックオフ宣言の内容について詰めていきたいと思います。

[松田委員]

務めさせていただきます。

[委員長]

松田委員、橋本委員、栗林委員の3名から了解が得られましたので、改めて拍手をお願いをしたいと思います。

<拍手>

[委員長]

その他にご質問はありませんか。他に無いようですので、委員の皆様にお諮りします。

協議事項（2）稲沢市観光まちづくりビジョンキックオフシンポジウムについては、事務局の提案どおりとし、開催に向けて準備を進めていくこととしてよろしいでしょうか。

<「異議無し」の声>

[委員長]

ご異議も無いようですので、事務局は開催概要に基づき、準備を進めていただくようお願いいたします。

### （3）その他

[委員長]

最後に協議事項（3）その他について、事務局から説明をお願いします。

= [事務局] =

**【資料4「稲沢市観光基本計画推進委員会設置要綱（案）」に基づき説明】**

[委員長]

ただ今の説明に対し、ご意見やご質問等はありませんか。

この推進委員会は、「本ビジョンの進捗状況を管理する中で、市に対して様々な意見等を提言していく会議」という理解で良いでしょうか。

[事務局]

お見込みのとおりです。

[委員長]

ご質問等はありませんか。特に無いようですので、以上をもちまして本日の議事を終了します。委員の皆様におかれては、様々な意見をいただき、また、任務をお引き受けいただき、誠にありがとうございました。

### 3 その他

[事務局]

慎重審議いただきありがとうございました。本日のご意見を踏まえ、「稲沢市観光まちづくりビジョン」の策定手続きを進めてまいります。

それでは、最後に事務局から事務連絡をさせていただきます。始めに「天下の奇祭 国府宮はだか祭」のご案内になります。2月28日（水）に開催されます国府宮はだか祭の関連行事の日程と祭りの概要が掲載された資料を本日お配りしております。裏面には近年の大鏡餅の奉賛団体も掲載しております。今年は瀬戸市の奉賛会からお納めいただけるとお聞きしています。

次に、3月3日（土）と4日（日）に愛知県植木センターで開催されます「第12回稲沢市梅まつり」のご案内です。お配りした開催チラシにも記載のとおり、今年度は「メタウォーター下水道科学館あいち」と「明治なるほどファクトリー愛知」にもご協力いただき、さらなる祭りの盛り上げに繋げていきたいと考えております。

最後に「稲沢市観光まちづくりビジョンキックオフシンポジウム」について改めてご案内いたします。日時は3月10日（土）午後2時から午後4時まで、開場時間は30分前の午後1時30分になります。また、会場は名古屋文理大学フォーラムの小ホールになります。お忙しい中とは存じますが、ご出席の程よろしくお願ひします。なお、会場までのアクセス方法ですが、車もしくは公共交通機関をご利用ください。公共交通機関の場合は、JR稲沢駅か名鉄国府宮駅から市のコミュニティバス「稲沢中央線」にご乗車いただき、最寄りの停留所「小池南」で下車していただきますようお願いいたします。詳しくは事務局までお問い合わせください。

本日をもって、策定委員会の会議は終了となります。委員の皆様におかれましては、昨年3月から約1年にわたり「稲沢市観光まちづくりビジョン」の策定にご尽力をいただき、誠にありがとうございました。おかげをもちまして、「まもなく策定」という段階までたどり着くことが

できました。深く感謝を申し上げます。本ビジョンの中で基本理念として定めた「稲沢の“光”をつなぐ観光まちづくり」を実現するためには、市民の皆様と目指すべき目標を共有した上で、協働で取り組みを進めていくことが重要と認識しております。稲沢市観光協会の組織・機能強化やプレイヤーの発掘や育成、観光客の受入体制整備を始め、課題は山積しておりますが、地域の持つ力を結集し、市民と共に力を合わせてこれらの難題に取り組んでまいりたいと思っております。来るべき平成30年度は市制60周年を迎えると同時に、稲沢市の観光まちづくりもいよいよ本格的にキックオフいたします。委員の皆様におかれましては、稲沢市が推進していく観光まちづくりに対しまして、引き続きご支援とご助言をいただけますと幸いに存じますので、何卒よろしく願いいたします。

以上をもちまして、会議を閉会させていただきます。長期にわたり慎重審議いただき、誠にありがとうございました。

以上